空間づくり

〝健康建築〟を実現、普及へ

健康空間の処方箋、「ＷＥＬＬ認証」案件が急増

「働き方改革」が多様化する中で、オフィスにも変化が求められている。こうした新たなニーズを背景に、オフィス建築分野で『健康』がトレンドワードとして、クローズアップされている。そこでは高い「省・創エネルギー」を実現しながら、快適なオフィス環境を創出し、入居者の健康と生産性向上が実現される。快適で健康なオフィスは、ワーカーの多様な行動に重点を置き、労働生産性向上や、有能な人材の確保などにつながるものと注目されている。こうしたことから、利用者の健康やウェルネス、快適性に焦点を当てた認証規格として、米国の不動産会社デロス・リビング社が開発した「ＷＥＬＬ認証」への関心も高まり、日本国内での認証案件が急増している。そこで、ＷＥＬＬ認証機関などと連携している一般社団法人グリーンビルディングジャパン（ＧＢＪ）の平松宏城共同代表理事に「〝健康建築〟の実現と普及」方策を聞いた。また、新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ―19）によるパンデミック終息後に訪れる「ニューノーマル」（新常態）下におけるオフィス環境のあり方を展望する。

寄稿

一般社団法人グリーンビルディングジャパン
共同代表理事　平松　宏城

グリーンビルディングジャパン（ＧＢＪ）は、日本でのサステイナブルな建築・都市環境の構築を推進する非営利活動法人である。世界的に広く使われている評価制度はいくつもあるが、中でも建築・都市環境におけるサステイナビリティ評価のＬＥＥＤ（＊1）、不動産投資におけるＥＳＧ（＊2）評価のＧＲＥＳＢ（＊3）、グリーンインフラの定量評価ＳＩＴＥＳ（＊4）、建築空間と人間の健康の関係を評価するＷＥＬＬ（＊5）は世界の実質標準ともいえるほどに利用度は高い。それらの制度設計と運営を行うＵＳＧＢＣ（＊6）やＩＷＢＩ（＊7）と、審査・認証を行うＧＢＣＩ（＊8）などとＧＢＪは常に連携している。

時代の変遷とともに求められる評価対象は拡大しており、サステイナビリティ（持続可能性）、レジリエンシー（災害への耐性、回復力）、ソーシャル・エクイティ（社会的公正性）、多様性、ＱＯＬ（生活の質）の向上などが主要テーマとなっている。これらは、持続可能な都市、社会をともに作ろうというビジョンの下で必要なものばかりだが、いずれも定量化が難しく、見えづらい。そこで、上述の認証制度を用いてそれらを可視化するニーズは、ＳＤＧｓやＥＳＧ金融の台頭が企業や自治体の背中を押す形で急速に高まりつつあり、ＧＢＪは設立８年目にして法人会員は64社を数えるまでに成長している。

最近では、健康経営の視点から職場や生活空間のウェルビーイングの確保への意識も高く、ＷＥＬＬへの注目が集まっている。ＷＥＬＬは、空気、水、食物、光、運動、温熱快適性、音、材料、こころ、コミュニティの10のカテゴリーで人間の健康を支えようする評価制度で、以下に挙げる例のように健康な空間を作るための処方箋でもある。

・汚れた外気から室内を守る（高性能フィルター）
・低ＶＯＣ材料、什器の確保、室内の汚染源を減らす
・イスはあなたの敵（人間工学に基づいた昇降デスク、腰への負担軽減）
・良い睡眠をとれるように、自然に即した光の下で過ごす
・野菜と果物を多く摂取する、砂糖過多のお菓子や飲料、トランス脂肪酸はＮＧ
・良質な水を飲みやすくする
・階段利用を促す

ただし、制度設計の精神は健康な空間づくりの処方箋には留まらない。社員による有給でのボランティア活動参加の承認や瞑想・ヨガのための空間確保を会社に求めるなど、利他主義やマインドフルネスの視点から、精神の健康も担保しようとしている。

◇　◇　◇

世界では４月26日現在４２３３件の登録、うち２９３件の認証があり、日本では37件の登録、うち５件の認証がある（図１、図２参照）。ニーズはあるが、それほど急ピッチで認証件数が伸びていない理由には、コンサルタントや審査員の不足、第３者認証であるがゆえの工数の多さとそれに伴い認証費用（書類審査費用、現場実査費用、コンサル費用）が嵩むことなどがある。さらに、そのような仕事の領域があることの認知度はいまだに低く、おそらく建築や都市計画を専攻する大学生、大学院生ですら、このような領域の市場の形成の可能性や、そこに活躍の場があることなどはあまり知られていないように思う。

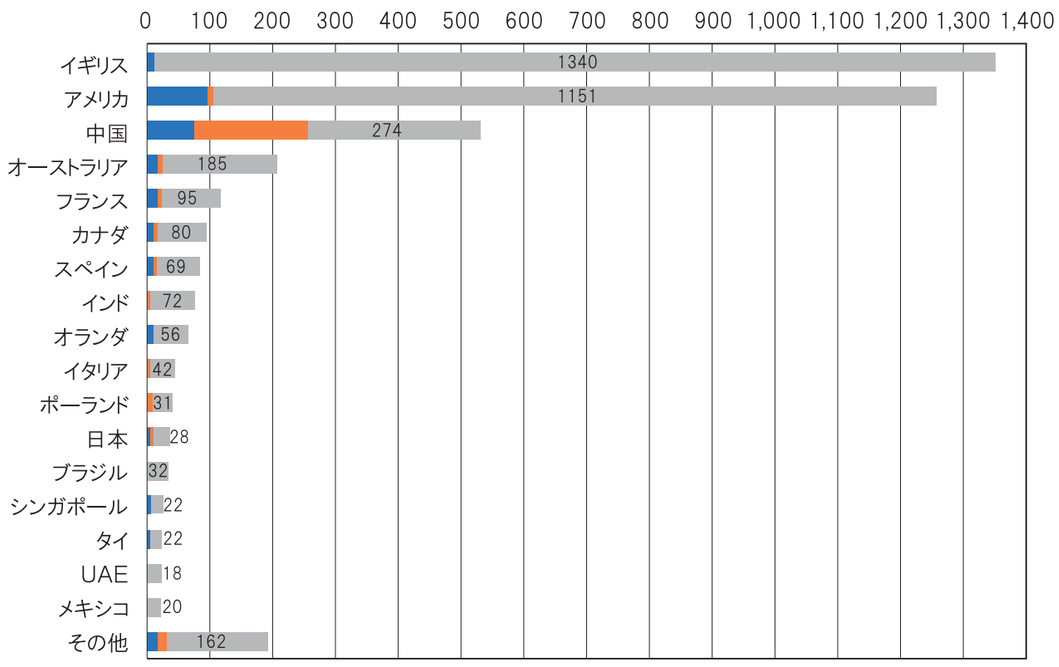
◇　◇　◇

新型コロナウイルスによるパンデミックで世界中騒然としているが、これからの都市や建築は、気候変動に伴う自然災害リスクと共にパンデミックリスクに備えなければならない。室内に留まらず、屋外も含んだ公衆衛生と健康を担保する都市デザインは根底から再考されていくであろうし、それらのリスク評価ニーズも高まると考えられる。

その時のキーワードは、建築の単位でいえば、高性能フィルター、紫外線殺菌装置の設置、換気回数の強化、汚染物質だけでなくウィルスも関知するセンサーの設置（アラーム機能）、病院の設計指針（緊急入院患者検査室の負圧確保や個室比率の増加）、教室の適切な広さや密度などであり、都市やコミュニティのスケールでいえば、肥満や糖尿病などの生活習慣病を減らすウォーカビリティ、パンデミック時に対応力を高める建物の用途可変性、平時と緊急時の公共空間の機能の見直し、アウトブレークしづらい適正な人口密度、より多くのより広いアウトドアスペース、大気清浄機能、避難所としての大規模都市公園の整備などが考えられる。

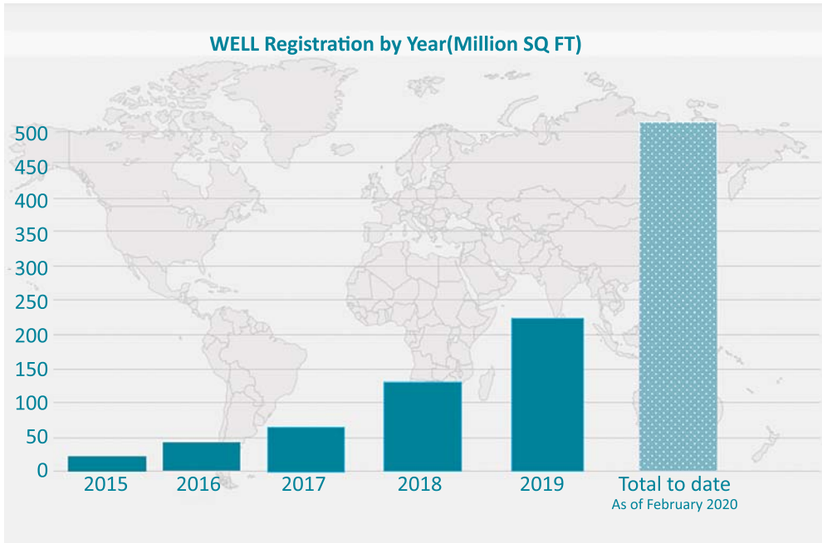
不動産のＥＳＧ評価ＧＲＥＳＢにも、ウェルネス、ウェルビーイングの評価項目が入り、コロナ後もますますその認識が広まると想定される中、今後のわれわれの活動にはさらに大きな期待が寄せられるものと考えている。

図１・国ごとのＷＥＬＬの登録・認証件数（総計4233。2020年４月26日現在）



	その他	メキシコ	UAE	タイ	シンガポール	ブラジル	日本	ポーランド	イタリア	オランダ	インド	スペイン	カナダ	フランス	オーストラリア	中国	アメリカ	イギリス
認証済	16	2	3		2	2	5	4	2	11	2	11	13	17	18	76	99	10
予備認証済	15		1	3	2		4	5	1	1	3	4	3	5	5	182	7	
登録のみ	162	20	18	22	22	32	28	31	42	56	72	69	80	95	185	274	1151	1340
全合計	193	22	22	25	26	34	37	40	45	68	77	84	96	117	208	532	1257	1350

図２・年ごとのＷＥＬＬ登録床面積（100万平方フィート）



(*1)LEED:Leadership in Energy and Environmental Design
(*2)ESG:Environment,Social and Governance
(*3)GRESB:Global Real Estate Sustainability Benchmark
(*4)SITES:Sustainable Sites Initiative
(*5)WELL:WELL Building Standard
(*6)USGBC:U.S Green Building Council米国グリーンビルディング協会
(*7)IWBI:International WELL Building Institute
(*8)GBCI:Green Business Certification Inc.)

三菱地所設計
＋EMOTION 心を動かし、未来をつくる。
代表取締役社長　林　総一郎
http://www.mj-sekkei.com
130 YEARS 1890-2020

NIHON SEKKEI　think
日本設計　代表取締役社長　千鳥義典

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED
日建設計
代表取締役社長　亀井忠夫

株式会社 大建設計
代表取締役社長　平岡省吉
本社　東京都品川区東五反田 5-10-8　大建設計東京ビル
TEL. 03-5424-8600　FAX. 03-5424-8615　〒141-0022
事務所　東京・大阪・名古屋・九州・札幌・東北・広島
北九州・静岡・横浜・京都・沖縄・国際・プラント・医療
http://www.daiken-sekkei.co.jp

KUME SEKKEI　久米設計
代表取締役社長　藤澤　進
〒135-8567 東京都江東区潮見2-1-22 TEL(03)5632-7811
東京　札幌　東北　名古屋　京都　大阪　九州　上海　ハノイ　ホーチミン　シンガポール

株式会社 大林組　取締役社長　蓮輪賢治
鹿島建設株式会社　代表取締役社長　押味至一
清水建設株式会社　取締役社長　井上和幸
大成建設株式会社　代表取締役社長　村田誉之
株式会社 竹中工務店　取締役社長　佐々木正人
戸田建設株式会社　代表取締役社長　今井雅則
株式会社 フジタ　代表取締役社長　奥村洋治
安藤ハザマ　代表取締役社長　福富正人
熊谷組　取締役社長　櫻野泰則
佐藤工業株式会社　取締役社長　宮本雅文
鉄建建設株式会社　代表取締役社長　伊藤泰司
飛島建設株式会社　代表取締役社長　乘京正弘
西松建設株式会社　代表取締役社長　髙瀬伸利
前田建設工業株式会社　代表取締役社長　前田操治